特定非営利活動法人(NPO)

アンハードノートピアノパラ委員会

UNHEARD NOTES Piano Para Committee

（前）　日本障害者ピアノ指導者研究会

アンハードノートピアノパラ委員会は

23 年間の幕を閉じます

これまでの皆様からのご支援に心より感謝申し上げます

The UNHEARD NOTES Piano Para Committee comes to an end after 23 years.

We would like to express our sincere gratitude for all your support so far.

生涯私を支えてくれた妻千代とともに

（2023 年 3 月 8 日逝去）

アンハードノートピアノパラ委員会

会長　迫田時雄

"Thank You for 23 Years - Even with Disabilities, One Can Play the Piano - Endless Challenges, Believing in Tomorrow"

Tokio Sakoda, President of UNHEARD NOTES Piano Para Committee
September 20, 2024

In 2001, the first meeting of the Japan Disabled Piano Teachers' Association took place, and over the past 23 years, we have worked alongside the growth of disabled pianists. I would like to express my heartfelt gratitude to all the people who have supported us throughout this journey.

I was born in Kagoshima and, during my studies in Vienna, I witnessed inhumane treatment towards disabled people. This experience made me realize the importance of supporting people with disabilities. After my retirement, I founded the Japan Disabled Piano Teachers' Association to nurture disabled pianists, and since then, I have organized events both domestically and internationally.

I strongly believe that if societal attitudes change, it will promote greater participation and advancement for people with disabilities. With this conviction, I continued my work with the UNHEARD NOTES Piano Para Committee (UPC). By showcasing the efforts and talents of disabled pianists, I am confident that society’s views will change, allowing people with disabilities to thrive in the future.

Today, concerts featuring disabled pianists are being held across the country, and as I witness their growth, I entrust my mission to the next generation. I hope that these activities will continue to evolve and inspire hope for the future. Thank you very much to everyone.

23 年間ありがとうございました

障がいがあってもピアノは弾ける

―限りなき挑戦　明日を信じて―

2001 年 9 月、東京は文京シビックホールで、日本障害者ピアノ指導者研究会第 1 回例会がスタートしました。あれから 23 年、障がい者ピアニストの不屈の魂を信じ、共に手を携え駆けぬけてきたわが身にも、人生の終幕がやってきました。協力していただいた多くのかけがえのない人々に心からの感謝を申しあげます。そして、障がい者ピアニストの成長、活躍を通して、偏見と差別のない世の中、努力と善意がきっと報われる、そんな平和な世界を実現するため、熱意ある人々が後に続いてくれることを確信し、私は、我が人生の最終章に終止符を打ちます。

私は 1937 年（昭和 12 年)、明治生まれの両親の三男として鹿児島に生まれました。父は小学校の音楽教師の傍ら、県の指導主事として県下の音楽普及指導の任をもっていました。それで県内あまねく、山間へき地や離島での教育のため、愛用のヴァイオリンを抱えてよく出張していました。私は小学生になった頃、家にあったピアノを独りで弾き始め、しばらくたってから父から教わるようになりました。上級生になってからは、父の出張に連れられてゆき、父が演奏するヴァイオリンの伴奏を任されていました。この頃父からよく教わった言葉が「心に太陽を持て、くちびるに歌を持て」でした。

武蔵野音楽大学の学生だった 1965 年（昭和 40 年）秋、私は初めてウィーンに留学することになりました。一流の教授からの膝突き合わせてのレッスンからは多大の薫陶を受け、実りある毎日でした。ある日、多忙な授業の合間を縫って、街の見学に出た時、私は身の毛がよだつ驚愕の体験をしました。旧東ドイツのユダヤ人強制収容所「ブーヘンヴァルト」を訪れた時です。そこはユダヤ人抹殺の遺跡でしたが、それと一緒に、自国の障がい者 20 万人処分の跡が残されていたのです。第二次大戦中のナチの命令による仕業ですが、あまりにも残酷で人間の尊厳を踏みにじる所為に、私は怒りに身が震えました。こんなことは世の中に断じてあってはならない、と決意しました。60 年前、異国での鮮烈な記憶です。

定年となり、かねて障がい者のために何か役に立つことはできないかと考え続けていた

私がたどり着いた結論は「ピアニストである自分にできることとして、障がい者ピアニストを育てよう」ということでした。それにはまず、障がい者に進んでピアノを教える先生を増やしていく必要がある、との構想が湧きました。

こうして創設したのが日本障害者ピアノ指導者研究会（IPD）です。**「障害があってもピアノは弾ける」**を合い言葉に口コミで趣旨を伝え、地道に研究会を重ね、2 年後には全国大会をひらきました。

日本国中のピアノの先生が立ち上がりました。

そして、2005 年 1 月、海外にも呼び掛けて**第 1 回ピアノパラリンピック in JAPAN を横浜みなとみらいホールで開催**、初めての国際大会は成功を収めました。この大会の開会式の演壇で当時聖路加国際病院長の日野原重明先生（1911 年～2017 年）が「迫田さん、この会はかつてない意義のある貴重な会だから、1 回だけに終わらせず、2 回、3 回と続けるよう頑張ってください」と述べられたのを、はっきりと覚えています。強烈な叱咤激励と受け止め、私はその後、この言葉を拠りどころとして度々の苦境を乗り越えてきました。

国際大会はオリンピックに合わせて 4 年ごとに、**第 2 回はカナダ・バンクーバーで、第 3 回ウィーン、第 4 回ニューヨーク、と回を重ねることができました。**こうした 20 数年の間、国内各地のピアノ教室の先生方から骨身惜しまぬご協力をいただいたことには只々感謝の言葉しかありません。

加えて海外の著名なピアニストたちの後押しが多大であったことは、大きな支えとなりました。彼らのほとんどが私の留学時代の恩師、友人でした。師弟愛、友情に国境はないことを実感し、感動しました。

一方、資金面では終始困難を極めました。国際大会は国内の数倍の費用がかかります。心ある企業や有志の寄付による多くの支援をいただきながら、それでも不足する部分が残ります。毎回の負債の処理には家内も神経をすり減らしました。詫びるしかありません。理解し惜しみないサポートをし続けてくれた私の家族（兄弟姉妹や子どもたち）にも、さらに出演する障がい者ピアニストのご家族にも多大なご負担をおかけしました。

海外への渡航費用は一人分だけでは済みませんから、なおさらです。陰ながら「ウチはピアパラ貧乏です」との内輪話ももっともだと申し訳なく思ってきました。

現代科学がどれだけ進歩しても、障がい者は生まれます。人智を超えた天の配剤です。**生**

まれてきた我々人間には皆等しく人生を全うする権利があります。障害をもって誕生した我が子は、唯一無二の宝子です。神は生まれてくる子に何かひとつ得手となる才能を賜物として授けられると言います。それのひとつがピアノに対する並々ならぬ興味であったら、そのチャンスは大いに伸ばしてやってほしい。

障害児の秘められた才能、超人的努力と創意工夫の精神。奇跡とも思えるこの現実を一般社会にもっともっと知ってもらうこと。そうすれば障がい者に対するものの見方がきっと変わってくる。世間の意識が変革すれば、障がい者の社会参加が促進され、地位向上につながっていく。このように私は固く信じて UPC（アンハードノートピアノパラ委員会）活動を続けてきました。

いま、国内各地で、規模の大小はあれど、障がい者ピアニストを中心としたコンサートやセレモニーが開催され、好評を得ていると聞きます。素晴らしいことです。**苦しい練習を重ねるピアニストにとって、発表のステージは自己実現のひのき舞台です。ここで拍手を受けることで百倍の勇気が湧いてきます。そしてこれは、次へ飛躍する力の源泉となります。**

各地で日常的に障がい者ピアニストのコンサートが開かれる……これが私の究極の願いです。

これを礎にして全国大会、国際大会へとつながっていく、きっとそういう景色が、近い将来実現するものと確信しています。

これまで私のもとで学んでくれた人々が、今や指導的立場となり第一線で活躍しています。彼らは私の理想について一番の理解者であり、支援者でした。心から感謝するとともに、今後の更なる発展を祈るものです。そして、私の志はこれからの彼らに託します。たくましい彼らが私の想いを引き継ぎ、一歩一歩前へ進めてくれることを期待しています。

万感を込めて、皆さま、本当にありがとうございました。

2024 年 9 月 20 日

アンハードノートピアノパラ委員会
会員の皆様　お世話になった皆様へ
23 年間、ありがとうございました

アンハードノートピアノパラ委員会
副会長 近藤和子

アンハードノートピアノパラ委員会は、2024 年 9 月 20 日、福島県会津若松市の風雅堂にて開催される「国際スペシャル音楽と伝統芸能・会津若松大会」をもって、私たちの活動に幕を下ろすこととなりました。

本来であれば、2024 年パリパラリンピックに参加する予定でしたが、ウクライナやロシア、イスラエルの紛争による影響で、パリ大会の参加を断念しました。代わりに、上田洋子クリント様からご提案いただいた会津若松での公演が実現する運びとなり、クラシック音楽と伝統芸能が融合するユニークな演出が企画されました。

私たちの会長も、4 年に一度の国際舞台を楽しみにしていたパラピアニストたちの夢を諦めさせたくないとの思いで、この素晴らしい提案を受け入れました。

2024 年 1 月、会長はこの新たな挑戦を決意しましたが、同時に 2023 年 3 月に最愛の妻を失うという辛い出来事もありました。この悲しみの中で、自らの活動や人生を振り返る機会ともなり、会津若松という土地が会長にとっても特別な場所であることから、ここで幕引きとすることを決めました。

上田洋子クリント様や実行委員の皆様の熱意に支えられ、障がいを個性と捉え、芸を磨き続けたピアニストたち、そして伝統芸能の皆様にとって、今回のステージが輝かしいものとなるように、力を尽くしたいと考えております。

パリ大会の断念、また最愛の妻との別れは大きな痛みを伴いましたが、理想を描き続ける気持ちは衰えていません。しかし、国際的な活動をリードするには限界を感じ、この会津若松大会をもって活動を終えることにしました。

今後は個人として音楽療法家としての活動を続けてまいります。これまで皆様からいただいた機会とご支援に、心から感謝申し上げます。

To the members of the UNHEARD NOTES Piano Para Committee and to everyone who has supported us

"Thank you for 23 years of support"

UNHEARD NOTES Piano Para Committee
Kazuko Kondo, Vice Chairperson

The UNHEARD NOTES Piano Para Committee will conclude our activities with the "International Special Music and Traditional Performing Arts - Aizuwakamatsu Festival," which will be held on September 20, 2024, at Fugado Hall in Aizuwakamatsu, Fukushima Prefecture.
Originally, we were scheduled to participate in the 2024 Paris Paralympic Games, but due to the ongoing conflicts in Ukraine, Russia, and Israel, we have decided to withdraw from the Paris Games. Instead, a performance in Aizuwakamatsu, proposed by Ms. Yoko Ueda Clint, will take place, featuring a unique fusion of classical music and traditional performing arts.
Our chairperson, who did not want to extinguish the dreams of the Paralympic pianists who had eagerly awaited their chance to perform on the international stage every four years, accepted this wonderful proposal with gratitude.
In January 2024, the chairperson made the decision to take on this new challenge, despite having suffered the great loss of his beloved wife in March 2023. During this period of mourning, he took time to reflect on his life and work. The city of Aizuwakamatsu, which holds a special place in his heart, became the fitting location for his final performance.
Supported by the passion of Ms. Yoko Ueda and the organizing committee, we will make every effort to ensure that this event becomes a shining stage for the pianists who have turned their disabilities into strengths, as well as for the traditional performing artists who continue to refine their craft.
Although withdrawing from the Paris Games and the loss of his beloved wife have been great challenges, the commitment to our ideals remains unwavering. However, recognizing the limits in leading international activities, we have decided to end our public role with this Aizuwakamatsu event.
In the future, we will continue our activities as music therapists. We sincerely appreciate the support and opportunities we have received from everyone over the years.

UPC 終幕に今思うこと

ー門下生として活動に携わってきた想いー

ピアニスト／アンハードノートピアノパラ委員会　秘書
八木下章子

2001 年文京シビックホールで産声をあげた、現アンハードノートピアパラ委員会は 2024 年 9 月 20 日會津風雅堂にて開催される「第 63 回会津若松市民文化祭」に参加する『国際スペシャル音楽と伝統芸能会津若松大会』を最後に 23 年間の活動に幕を下ろすこととなりました。23 年間の内の後半約 10 年間、皆様に教えていただきながら監事・秘書の役割を担ってまいりました。会を閉じるに当たり拙筆ながら、心を込めて書かせていただきます。

迫田先生との出会いは 15 歳の時、武蔵野音楽大学受験のため、ウィーン留学から帰国された迫田先生の弟子にしていただきたい、と当時師事していた先生のたっての願いから幸運にもレッスンをみていただけることとなりました。レッスン中は本場のドイツ語や英語が耳に飛び込んできて、外国の香りを感じた瞬間でした。音大入学後、先生の門下生は、どの他の門下生より多くの学生であふれ、熱心なご指導のもと、学生たちも一生懸命勉強しました。少し上の学年には，視覚障害の先輩がおられ、その方から点字を教えていただけたラッキーな経験も積みました。

数年後にウィーンで生活するチャンスを得た中で、健常者・障害者・黒人・白人・戦争負傷者の方々が、同じ国の中で工夫しながら生きる生き方や思考に触れ、生活様式の多様性の進歩発展の差は国々で違うと思いますが、日本の遅れを感じました。

帰国後先生主催の音楽教室の指導者仲間に入れていただき、そこに訪ねて来られた障害をもったお子さんのご父兄の多くが、申し訳なさそうに、遠慮がちに「レッスンしてもらえますか？」と。「もちろん喜んで」と答えると大変喜ばれて……長い間一緒に勉強しました。

最近目にしたニュースで「知的障害の青年（知的障害はするどい感受性を持ち合わせている）がバロックチェロでドイツの音楽大学から入学を許可され、留学費用のためにご両親がクラウドファンディングをはじめられた」との記事を読みました。以前と比べると日本も社会の有り様が変化していると感じます。

先生はご退職後、日本障害者ピアノ指導者研究会の設立と発展に邁進してこられ、第 1 回パラリンピック大会から第 4 回までの間に、参加国は 30 か国近くにもなり、世界 30 か国に種を蒔いたことで、これからも、それぞれの国で「障害者の能力を発揮するためのチャンス」となることを願っております。

国際障害者ピアノフェスティバル支援コンサート及び、世界大会や国内の会に出場された皆様。そのお子様たちを大きな愛情で支え、行動してこられたご両親様。そんな皆様の「晴れの舞台」へのお手伝いができましたことは大変嬉しく、様々な場面が目に焼きつき、音が耳に残っております。

最後に、この趣旨に賛同いただき、たくさんのお力添えをいただきました全ての皆様に感謝とともに心よりの御礼を申し上げます。

Reflections on the Conclusion of the UNHEARD NOTES Piano Para Committee (UPC)

--Thoughts from a Disciple Involved in Its Activities --

Pianist / Secretary of the Unheard Notes Piano Para Committee
Akiko Yagishita

The current UNHEARD NOTES Piano Para Committee, which first raised its voice at Bunkyo Civic Hall in 2001, will conclude its 23 years of activities with the "International Special Music and Traditional Performing Arts - Aizuwakamatsu Festival," held as part of the 63rd Aizuwakamatsu Citizen Cultural Festival at Fugado Hall on September 20, 2024. For about the last ten years of these 23 years, I have served as an auditor and secretary, learning from everyone along the way. As we bring the committee to a close, I would like to take this opportunity to express my heartfelt thoughts, even if my writing may be humble.

My encounter with Mr. Sakoda occurred when I was 15 years old. Preparing for my entrance exams to Musashino Academia Musicae, I was fortunate enough to be granted lessons with Mr. Sakoda, who had just returned from studying in Vienna, thanks to the earnest recommendation of my then teacher. During the lessons, I heard authentic German and English spoken, and I felt the aroma of foreign cultures. After entering music school, Mr. Sakoda's class overflowed with students more than any other class, and under his enthusiastic guidance, we all studied with great effort. I was also fortunate to have a senior student with a visual impairment in a higher grade, who taught me Braille, which was a rare and valuable experience.

A few years later, I had the chance to live in Vienna, where I encountered a society where people of different backgrounds—able-bodied, disabled, Black, White, and war-injured individuals—lived together, creatively navigating life in the same country. Although the progress of diversity and lifestyle development differs across countries, I felt Japan was lagging behind.

After returning to Japan, I joined Mr. Sakoda's music school as an instructor. Many of the parents of children with disabilities who came to visit us would hesitantly ask, "Would you be able to teach our child?" When I responded, "Of course, I'd be happy to," they were overjoyed. We continued learning together for a long time.

Recently, I came across a news story about a young man with an intellectual disability (who, despite his condition, has a keen sensitivity) who was accepted into a German music university to study Baroque cello. His parents began a crowdfunding campaign to cover his study abroad expenses. Compared to the past, I feel that Japanese society is also changing.

After retiring, Mr. Sakoda devoted himself to establishing and developing the Japan Research Group for Piano Instructors of Disabled Students. Through our committee's activities, the number of participating countries grew to nearly 30. By spreading our initiative to 30 countries worldwide, we hope that each nation will continue to offer "opportunities for people with disabilities to showcase their abilities."

I am deeply grateful for the opportunity to assist with the support concerts for the International Piano Festival for Disabled Individuals, as well as the World and domestic competitions. I was particularly touched by the love and dedication of the parents who supported their children and took action to help them shine on the stage. The various scenes and sounds from those moments are etched in my memory.

Finally, I would like to express my heartfelt gratitude to everyone who supported our cause and contributed their efforts.

アンハードノートピアノパラ委員会概要

1.目的

①ピアノを学ぼうとする障害者に音楽指導を行う者が集い、その教授法の研究・開発を行う
②会員の相互啓発を通して、音楽家、指導者としての資質向上を図る
③さらに、総合的な教育に役立て、音楽文化の発展、人類の幸福のために寄与することを目的とする
④国際障害者ピアノフェスティバル開催をめざす

2.設立趣意

障害があってもピアノは弾ける

私の在職中、ハンディーのある子どもへのピアノ指導のうわさを聞いて、各地から障害をもつお子さんの親御さんが相談に来ました。二度、三度とピアノの先生に断られたという体験を聞き、憤りを覚えました。障害を理由に好きなピアノのレッスンを断られる。どれだけ辛く、悔しいことか。単純ですが、それが日本障害者ピアノ指導者研究会(略称 IPD)を立ち上げた動機です。

ピアノの練習は楽しいことばかりではありません。根気よく地道な練習を積み重ねなくてはなりません。まして障害者には健常者の数倍の工夫と努力が求められます。辛い練習を克服するには、目標・希望が必要です。人前で演奏するコンサート出演は練習を励ましてくれます。そして年 1 回の全国大会出場が夢を与えます。さらに夢は大きいほど良い、4 年毎の世界大会参加をめざすことは胸躍るビッグな夢となり、厳しい練習にも耐える励みとなるはずです。

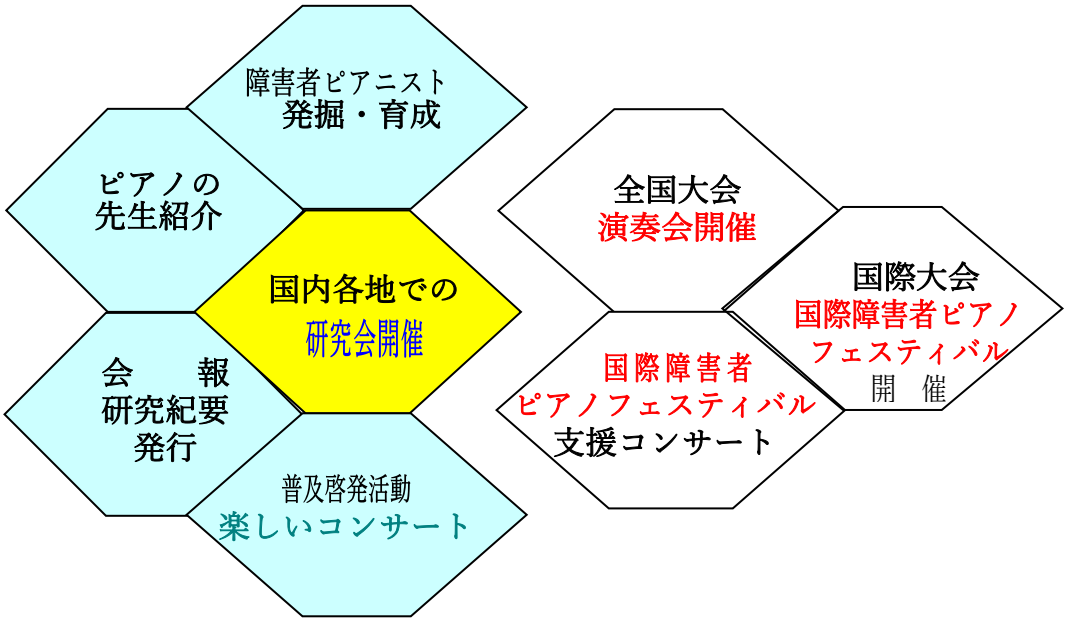
自閉症、ダウン症候群、視覚・聴覚障害、麻痺、先天性欠損症、などいかなる障害をもつ方も参加できるピアノの世界的祭典……国際障害者ピアノフェスティバルは、演奏の優劣を競うコンクールではなく、音楽を通して勇気や創意工夫の精神を育み、音楽する喜びを分かち合うことを目的としています。

私たち音楽家、そして人類の生み出した最高の楽器ピアノを愛し、その音楽を学ぶ者にとっても、あらゆるハンディーに対応したピアノ技法とその指導法を研究することは、すなわち真に創造的音楽家としての能力を醸成し、高めていく絶好の場となるに違いありません。

こうした考えを同じくする人々と手を携え合い、切磋琢磨しながら励んでいきたいと思います。一人でも多くの方にご理解ご賛同いただければ幸いです。

会長　迫田時雄

3.活動



第１回ピアノパラリンピック in JAPAN　第一部の表彰式（上）、A コース本選演奏風景（右上）、挨拶される日野原重明先生（左上）、羽田孜元総理（左下）。右下は駐日米国大使ベーカーさんと同夫人ナンシー・ベーカーさん

4.沿革

01/09 月　日本障害者ピアノ指導者研究会第 1 回例会　於：文京シビックホール
　　参加 36 名　楽しいコンサート演奏者 4 名
01/10 月　研究会通信第 1 号発行　＜第 1 回例会報告、カテゴリー表ほか＞
02/01 月　読売新聞「障害者ピアノ弾きやすく　教師、外科医ら研究会を発足」と第 2 回例会（01/12 月　練馬区桜台教会）を紹介
02/09 月　IPD 第 1 回総会　　於：千代田区神田公園区民会館　会員数 74 名
　　会則承認　役員選出
03/10 月　迫田時雄著『片手学習のための小品集』（6 ヶ国語対応）自費出版
03/10 月　第 8 回研究会例会・鹿児島　於：ハートピアかごしま
　　参加 60 名　楽しいコンサート演奏者 4 名
03/10 月　NHK テレビ全国　「おはよう日本」で第 8 回例会（鹿児島）を紹介放映
03/12 月　「みんなの楽しいコンサート in 高輪」第 1 回全国大会　開催
　　於：高輪区民センターホール　出演者 25 名　来場者 240 名（満席）
03/12 月　NHK テレビ全国「おはよう日本」で 7:15 から、高輪コンサートの話題を放映
04/05 月　日本アムウェイ(株)より　「One by One アワード」NPO 奨励賞受賞
05/01 月　第 1 回ピアノパラリンピック in JAPAN　開催　　1 月 9・10 日 2 日間
　　於：横浜みなとみらいホール　来場者 800 名（両日満席）
　　出演者 92 名（内海外から 15 か国 20 名）　2 日間延べステージ数 129
05/05 月　日野原重明先生 IPD 名誉会長に就任
05/08 月　第 16 回研究会例会・広島　於：広島大学学士会館　参加 100 名
　　楽しいコンサート出演者 12 名
05/10 月　PIANO PARALYMPICS　DEMONSTRATION RECITAL
　　於：カナダ･バンクーバー
　　出演者 8 名　来場者 300 名　現地総領事公邸でレセプション
05/12 月　「めざそう！　ピアノパラリンピック in AKASAKA」第 2 回全国大会　開催
　　於：赤坂区民センターホール　出演者 41 名　来場者 380 名
06/05 月　当会、NPO 法人（特定非営利活動法人）として認証され登記完了
06/07 月　ピアノパラリンピック支援コンサート　於：東京文化会館小ホール
　　出演者 10 名　来場者 450 名
06/08 月　練馬アトリューム・ピアパラ入賞者ピアノコンサート
　　於：練馬区本庁舎アトリューム　主催：練馬区文化国際課
　　出演者 5 名　来場者 400 名
06/09 月　NPO/IPD として第 1 回総会　　於：十文字学園高　　定款承認
06/12 月　ムジカノーヴァ 2006 年 12 月号　「頼近美津子の音楽教育トーク第 60 回」に、頼近―迫田時雄対談を掲載

全国大会　第 1 回　高輪

第 2 回　赤坂

第 3 回　千葉

第 16 回研究会　広島

06/07 月支援コンサート東京

リサイタルを終えてくつろぐ一行
（05/10 月　バンクーバーにて）→

06/12 月　「めざそう！　ピアノパラリンピック in SHIBUYA」第 3 回全国大会　開催
於：日本アムウェイ(株)本社オーディトリアム　出演者 35 名　来場者 400 名

07/05 月　ピアノパラリンピック支援コンサート in 東京・羽村市
於：羽村市ゆとろぎ大ホール　出演者 11 名　来場者 800 名

07/05 月　NHK 総合テレビ「首都圏ネットワーク」の中で羽村コンサートを紹介・放映

07/10 月　第 24 回研究会例会・札幌　　於：札幌大谷大学記念ホール
来場者 340 名　楽しいコンサート出演者 20 名

07/12 月　ピアノパラリンピック・デモンストレーションコンサート in United Nations
於：ニューヨーク国連本部ハマーショルドホール　出演者 13 名来場者 250 名

07/12 月　ピアノパラリンピック・デモンストレーションコンサート in Carnegie
昼・夜 2 回公演　於：カーネギーワイル･リサイタルホール
出演者 25 名　来場者 700 名

07/12 月　NHK テレビ 21:00 ニュースで、12 月 3 日 NY 国連本部での「障害ある人たちのピアノ演奏会」について全国放映

ピアノパラリンピック･デモンストレーションコンサート風景

07/12 月国連コンサート
（NHK 全国放送）

岩崎花奈絵さん

桑原良恵さん

カーネギーホール

08/02 月　「めざそう！　ピアノパラリンピック in KANAGAWA」第 4 回全国大会　開催
於：昭和音楽大学ユリホール　出演者 53 名　来場者 300 名

08/10 月　読売新聞夕刊 1 ページ全面のズームアップ欄で「音のパラリンピック」と題し、IPD の活動を写真特集記事で紹介

08/12 月　国際大会の名称を「国際障害者ピアノフェスティバル（前ピアノパラリンピック）」と改め、シンボルタイトルを“UNHEARD NOTES”＜初めて聴く夢と希望の奏で＞とする旨発表

08/12 月　国際障害者ピアノフェスティバル in バンクーバー支援コンサート
於：東京文化会館小ホール　出演 7 名　来場者 400 名

09/03 月　「めざそう！　国際障害者ピアノフェスティバル in CHIBA」
第 5 回全国大会開催　於：千葉市・京葉銀行文化プラザ
出演者 74 名　来場者 400 名
奥本涼楓（11 歳）
函館―千葉インターネット同時中継出演成功
（右写真）

09/05 月　研究会通信第 29 号発行〈第 5 回全国大会　第 2 回フェス一次審査ほか〉

09/09 月　**第 2 回バンクーバー国際障害者ピアノフェスティバル**
於：カナダ・バンクーバー ブリティッシュ コロンビア大学　チャンセンター
出演者 12 か国、72 名　　4 日間 174 ステージ

09/12 月　第 2 回バンクーバー国際障害者ピアノフェスティバル　**受賞者コンサート**
於：赤坂区民センターホール

11/12 月　**国際障がい者ピアノフェスティバル・アジア大会**
於：国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）多目的ホール

13/09 月　国際活動の活発化に伴い、国際分野を分化して
NPO 国際障害者ピアノフェスティバル（CIPFD）を設立

13/11 月　**第 3 回ウィーン国際障がい者ピアノフェスティバル**
於：ウィーン･ミノリテン教会大聖堂　出演者 48　聴衆 1300

14/02 月　第 3 回ウィーン国際障がい者ピアノフェスティバル**受賞記念コンサート**
於：国立オリンピック記念青少年総合センター　　※大雪のため行啓は中止
日野原重明会長挨拶

15/07 月　**アジア・汎太平洋国際障がい者ピアノフェスティバル in 東京　2015**
於：東京文化会館小ホール

16/06 月　法人名を、特定非営利活動法人 UNHEARD NOTES ピアノパラ委員会（UPC）に改称

18/12 月　**第 4 回ニューヨーク国際障がい者ピアノコンペティション**
於：ニューヨーク　聖ヨハネ教会大聖堂　バーロック音大　出演者 16 か国 31 人　※函館、徳島から 2 名インターネット同時中継で参加

19/09 月　第 4 回ニューヨーク国際障がい者ピアノコンペティション**受賞者コンサート**
於：国立オリンピック記念センター 大ホール
出演　邦人 8 名、海外 7 か国から 7 名　計 15 名　来場 400 名

24/09 月　第 63 回会津若松市民文化祭　参加行事
国際スペシャル音楽と伝統芸能　会津若松大会 出演者 11 名

19/09 月　国立オリンピックセンター大ホール

みんなの楽しいコンサート　全国大会

障害をおもちのピアニストであれば、誰でも出演できる年１回の全国大会

第１回　2003.12 月「みんなの楽しいコンサート in 高輪」
東京 於：高輪区民センターホール　出演 25 名　来場 240 名
第２回　2005.12 月「めざそう！　ピアノパラリンピック in AKASAKA」
東京 於：赤坂区民センターホール　出演 41 名　来場 380 名
第３回　2006.12 月「めざそう！　ピアノパラリンピック in SHIBUYA」
東京 於：アムウェイ本社ビル（渋谷）出演 35 名　来場 400 名
第４回　2008.02 月「めざそう！　ピアノパラリンピックin KANAGAWA」
神奈川 於：昭和音楽大学ユリホール　出演 53 名 来場 300 名
第５回　2009.03 月「めざそう！　国際障害者ピアノフェスティバル in CHIBA」
千葉 於：京葉銀行文化プラザ　２日間　出演 74 名　来場 400 名

国際障害者ピアノフェスティバル支援コンサート

４年に一度の国際ピアノフェスティバル実現に向けた、認知度向上、資金準備のための普及啓発活動

2004.10 月 ピアノパラリンピック支援コンサート
迫田時雄ピアノリサイタル　　東京・広島・鹿児島公演
2005.10 月 Piano Paralympics Demonstration Recital
於：カナダ・バンクーバー　　出演者 8 名
2006.07 月 ピアノパラリンピック支援コンサート in 東京
於：東京文化会館小ホール　出演 10 名　来場 450 名
2006.11 月 ピアノパラリンピック支援コンサート in 福山市
主催：国際ソロプチミストローズ福山　出演 10 名　来場 300 名
2007.05 月 ピアノパラリンピック支援コンサート in 東京・羽村市
於：羽村市ゆとろぎ大ホール　　出演 11 名　来場 800 名
2007.09 月 ピアノパラリンピック支援コンサート in 観音寺
主催：国際ソロプチミスト観音寺　出演 18 名　来場 450 名
2007.11 月 ピアノパラリンピック支援コンサート in サラマンカ・岐阜市
ニューヨークコンサートツアー壮行演奏会
於：岐阜県民ふれあい会館サラマンカホール　出演 15 名　来場 400 名
2007.12 月 ピアノパラリンピック･デモンストレーションコンサート in United Nations
於：NY 国連本部ハマーショルドホール　出演 13 名　来場 250 名
2007.12 月 ピアノパラリンピック･デモンストレーションコンサート in Carnegie
於：カーネギーワイル・リサイタルホール　出演昼夜 25 名 来場 700 名
2008.08 月 ピアノパラリンピック支援コンサート in 長野
於：メルパルク長野　　出演 16 名　来場 500 名
2008.12 月 国際障害者ピアノフェスティバル in バンクーバー 支援コンサート
於：名古屋・中村文化小劇場　出演 23 名　来場 150 名
2008.12 月 国際障害者ピアノフェスティバル in バンクーバー 支援コンサート
於：東京文化会館小ホール　出演 7 名　来場 400 名

研究会例会

三部構成〔①障害について専門家の講演聴講　②会員による体験研究発表　③みんなの楽しいコンサート〕で開催される独特のシンポジウム

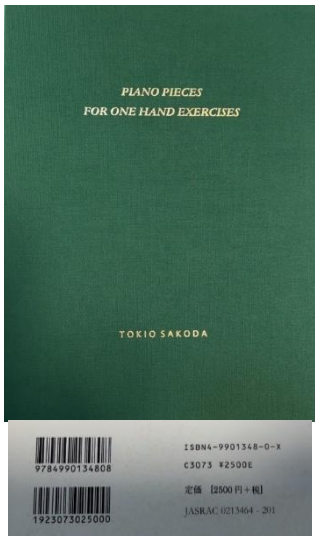
年　月	回数	開催地	会　場	演奏者数	来場者数
2001　9 月	第1回	東　京	文京ｼﾋﾞｯｸﾎｰﾙ	4	36
2001　12 月	第2回	東　京	練馬区桜台教会	6	80
2002　5 月	第3回	東　京	千代田小学校	7	53
2002　12 月	第4回	東　京	練馬区桜台教会	7	60
2003　3 月	第5回	関　西	ﾔﾏﾊﾐｭｰｼﾞｯｸ大阪心斎橋店	17	110
2003　7 月	第6回	福　岡	市民福祉プラザ	12	110
2003　7 月	第7回	仙　台	仙台市青少年文化ｾﾝﾀｰ	12	55
2003　10 月	第8回	鹿児島	ハートピアかごしま	4	60
2004　1 月	第9回	北海道	札幌市男女参画ｾﾝﾀｰ	4	60
2004　3 月	第10回	東　京	練馬区桜台教会	4	55
2004　4 月	第11回	広　島	中国放送1階ロビー	8	51
2004　6 月	第12回	北海道	札幌市ﾗｲﾌﾞｶﾌｪ・ﾄｰﾝ	4	37
2004　7 月	第13回	仙　台	ﾔﾏﾊﾐｭｰｼﾞｯｸ東北仙台店	11	50
2005　6 月	第14回	北海道	札幌市ﾄﾞﾛｯﾌﾟｲﾝｶﾌｪ	0	13
2005　8 月	第15回	仙　台	ﾔﾏﾊﾐｭｰｼﾞｯｸ東北仙台店	11	60
2005　8 月	第16回	広　島	広島大学学士会館	12	100
2005　11 月	第17回	山　梨	山梨市民会館ﾎｰﾙ	14	100
2006　4 月	第18回	京　都	京都大学100周年時計台記念ﾎｰﾙ	27	220
2006　5 月	第19回	秋　田	日本赤十字秋田短期大学	8	200
2006　7 月	第20回	仙　台	ﾔﾏﾊﾐｭｰｼﾞｯｸ東北仙台店	16	80
2006　11 月	第21回	宮　崎	宮崎日日新聞社宮日ﾎｰﾙ	17	200
2007　7 月	第22回	岡　山	くらしき作陽大学聖徳殿	19	250
2007　7 月	第23回	垂　水	鹿児島県垂水市文化会館	14	300
2007　10 月	第24回	北海道	札幌大谷大学記念ﾎｰﾙ	20	340

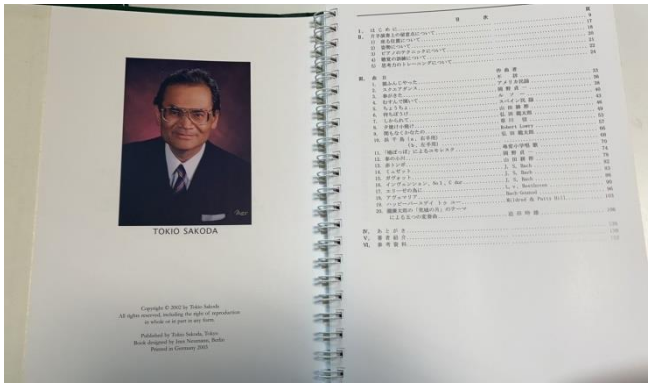
会報・研究紀要発行

会報　研究会通信　発行
第 1 号 2001 年 10 月発行
……季刊
第 29 号 2009 年 5 月発行

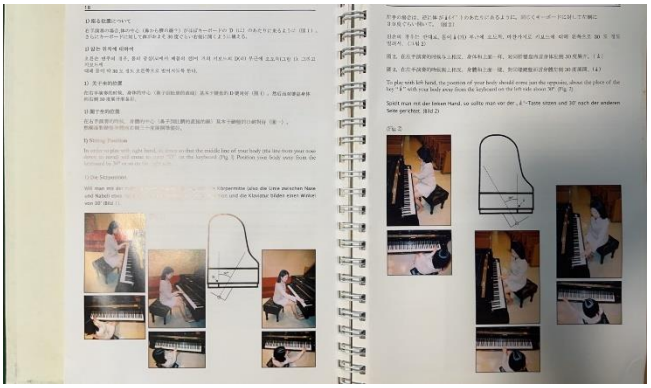
世界でひとつの障がい者音楽指導の書籍

迫田時雄著『片手学習のための小品集』（６ヶ国語対応），自費出版,2003





「座る位置」について解説したページ→



〔書評〕

一般社団法人　日本発声医学協会
代表理事　野口千代子

ちょうど 50 年前に、武蔵野音楽大学声楽科入学試験の自由曲の伴奏をしてくださったのが、迫田時雄先生との出会いです。合格した後に「おめでとう！」と嬉しそうに励ましてくださったことを昨日のことのように思い出します。その後、私はウィーン国立音学大学、ウィーン大学医学部で学び、発声学と振動医学の専門医となりました。

迫田先生が、国境を越え、障害を乗り越えていこうとする演奏家たちをお育てになった足跡は、日本のこれからの新しい音楽活動創造の礎になることと確信しております。

音楽そして医学を専門とする立場から『片手学習のための小品集』の書評を書かせていただきます。

まず、音楽的見地からいうと、ハンディーのある演奏家を育ててこられた現場で得た点字、暗譜、片手での和声などの学習法と演奏法が詰まっています。加えて、留意事項として「座る位置（写真右下)」「姿勢」「テクニック」「聴覚訓練」「思考コントロール」を明快に解説しています。

次に医学的見地からいうと、ピアニストが一番悩む身体の痛みは、演奏や練習過多による腱鞘炎や腰痛です。姿勢が悪いと呼吸筋が硬くなり、胸椎と腰椎に負担がかかると、後に循環器関連、ヘルニアなどの関節炎に繋がりますが、この曲集は上述の留意事項を守ることにより、ピアニストの骨格筋を健康に保ち健やかな演奏活動を促進します。

まさに迫田先生の経験と技術、ピアニストへの愛情が詰まった珠玉の１冊です。

あとがき

「天を仰ぐほどの偉大な業績も、誰かが、最初にその構想を夢見、誰かが可能性を信じて誰かがその実現に努力して、はじめて達成されるものである」チャールズ・F・ケタリング

★★★

人生の最終段階になると、人は誰でも、まとまった文章や字が書けなくなる、何ともどかしい時期を迎えます。そういう時こそ、伝えたい想いがあふれてくるもので、その想いを引き出し、聴き取り書き（代筆）し、編集してくれるボランティアの存在が必要だと痛切に感じます。それを実現してくれる人＝**コンパニオン（companion）＝信友（soul mate）**に出会えることは、どんな医療行為にも勝る安寧と幸福感をもたらすことを臨床の医師や看護師たちはよく知っています。[注)]

「お前が、そう思うのならやってみなさい。諦めずに一生懸命やり遂げなさい。そうすれば何であれ、ひとかどの者になれます」「どんな時にも美しく在ること」「始まりがあれば終わりは必ず来るもの。何事も引き際を見失わず、自分の幕引きは自分で定めること」とは、迫田家の母の口癖であったとのこと。その教えを全うするかのように、どんな時にも揺るぎないサポーターであり続けた弟（迫田靖夫氏）に、「感謝の言葉」を代筆してもらい、今、多くの人々のサポートを得て、人生の幕引きを成し遂げようとしている兄（迫田時雄氏）は幸運です。人に迷惑をかけず完璧に自分だけで始末できなければ恥だと思わず、自分の最期くらい多くの人の手や知恵や力の介入を受け容れましょう。

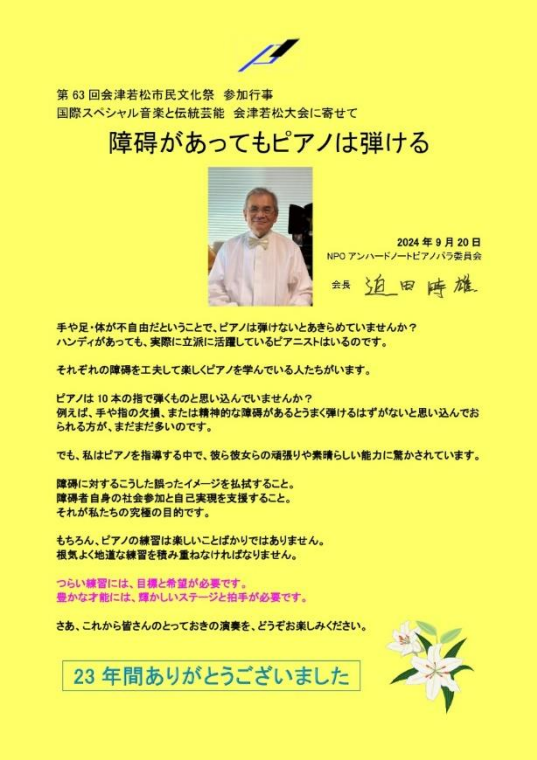
介護とは「その人の自尊心を護るために介入すること」なのですから。

看護師／アンハードノートピアノパラ委員会　副会長
近藤和子

注）平成 6 年(1994 年)、知人であった小山ムツコさんが癌により余命 6 カ月を宣告された時「傾聴」の必要性を訴えられました。彼女は『余命 6 カ月から読む本』（ファイナルステージを考える会編，海鳥社,1998）を出版、講演してまわりました。これが種となって、一部の医療者や一般市民団体が「傾聴」の効用を謳い続け、その考えは広まりつつあります。しかし、元気な時は思いつかない、介護や看取りに直面している家族には余裕がない……だからこそ、終活を意識したら「自分らしい最期」のために、看取り期の「傾聴＆編集ボランティア」を探してほしいのです。手がかりになる団体を次にご紹介します。

(1)ファイナルステージを考える会（福岡県福岡市）
(2)元ちゃんハウス（石川県金沢市）
(3)上智大学グリーフケア研究所（東京 四谷キャンパス・大阪 サテライトキャンパス）

★この冊子は【TOKIO の ACP（アドバンス・ケア・プランニング）】の 2 冊目になります。自分の目の黒いうちにやり遂げておきたいことリスト（BUCKET　LIST）のゴールであり、同時に【日本老年医学会が提唱する ACP の目標】（本人の意向に沿った、本人らしい人生の最終段階における医療・ケアを実現し、本人が最期まで尊厳をもって人生を全うすることができるよう支援することを目標とする）を達成することをめざしたものです。



第 63 回会津若松市民文化祭　参加行事
国際スペシャル音楽と伝統芸能　会津若松大会に寄せて

障碍があってもピアノは弾ける

2024 年 9 月 20 日
NPO アンハードノートピアノパラ委員会
会長 迫田時雄

手や足・体が不自由だということで、ピアノは弾けないとあきらめていませんか？
ハンディがあっても、実際に立派に活躍しているピアニストはいるのです。

それぞれの障碍を工夫して楽しくピアノを学んでいる人たちがいます。

ピアノは 10 本の指で弾くものと思い込んでいませんか？
例えば、手や指の欠損、または精神的な障碍があるとうまく弾けるはずがないと思い込んでおられる方が、まだまだ多いのです。

でも、私はピアノを指導する中で、彼ら彼女らの頑張りや素晴らしい能力に驚かされています。

障碍に対するこうした誤ったイメージを払拭すること。
障碍者自身の社会参加と自己実現を支援すること。
それが私たちの究極の目的です。

もちろん、ピアノの練習は楽しいことばかりではありません。
根気よく地道な練習を積み重ねなければなりません。

つらい練習には、目標と希望が必要です。
豊かな才能には、輝かしいステージと拍手が必要です。

さあ、これから皆さんのとっておきの演奏を、どうぞお楽しみください。

23 年間ありがとうございました

※「しょうがい」の表記について
「障害」の「害」の字が障害のある方を傷つけるのではないかという考えから、「障害」「障がい」「障碍」の表記については関連各所で議論が続いています。東京オリンピック・パラリンピックの開催を前に、第 1441 回放送用語委員会（東京）でも検討がなされました。結論は「原則は『障害』とする」「必要に応じて『障がい』を使うこともできる」「固有名については『障がい』『障碍』を使うこともできる」「上記の事項は、今後も実情に応じて不断の見直しを行う」というものでした。本冊子においても「大切なのは表記ではなく、向き合い方」という考えから、「障害」「障がい」「障碍」は表記を統一することなく使用しています。
（参考）第 1441 回放送用語委員会（東京）2019 年 11 月 22 日　「障害」の表記について
https://www.nhk.or.jp/bunken/research/kotoba/pdf/20200401_3.pdf

---

2024 年 9 月 20 日発行
発行　　NPO 法人アンハードノートピアノパラ委員会
編集　　みんなの MITORI 研究会　https://takenagah.wixsite.com/mitori